



あすなろ

特別支援教室あすなろ
令和8年 3月① No.6

こんな「困った」ありませんか？

今年度、特別支援教育や特別支援教室で行っている支援について年6回あすなろだよりでお知らせしてきました。日常生活のお子さんとの関わりの中で、お子さん自身が『困った』と感じていること、保護者の方が『困った』と感じていることがあると思います。あすなろだよりを通して、6つのケースを紹介していきます。お子さんとの関わり方のヒントにいただけると幸いです。

それぞれのケースについて、**実態** → 『困った』の背景にあるもの → **対応、支援** の流れで紹介します。

ケース5 文字の読み書きがうまくいかない子

実態

- ・文章をつかえずに、スラスラと音読することが難しい。
- ・漢字やカタカナが覚えられない。
- ・マスの中に文字がおさまらなかつたり、文字が整わなかつたりする。
- ・黒板の文字をうまく写せない。文字を書くことに時間が掛かる。



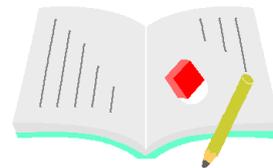
『困った』の背景にあるもの

① 読むこと

音韻処理の難しさ(文字と音とを結びつけることが難しい)、文字認識の難しさ(文字の形を正確に認識し、記憶することが難しい)、自動化の難しさ(一つ一つの文字を単語としてまとめて読むことが難しい)が関係しています。

② 書くこと

文字を見て書くことは、身体全体の土台と多くの感覚が統合されて、初めて成立する複雑な動作が必要です。そのため、体幹や姿勢、頭の動きに合わせて視線を安定させる力、頸部(首)の固定力、眼球運動のコントロール、視空間認知、感覚統合等の弱さや未熟さが関係しています。



対応・支援

① 読むこと

○教材を工夫する。

→文字が大きくて行間が広い本や教材を選ぶ。音声読み上げ機能のあるデジタル教材を活用する。

○環境調整をする。

→文章にスリットを入れたり、読む箇所以外を隠したりする。また、読むときには静かで集中できる環境を整え、短時間で休憩を挟むようにする。

○語彙の獲得

→多くの言葉を知ることで、文章を読む際に文脈から単語を推測しやすくなる。本の読み聞かせは、多くの言葉を知るきっかけになるため、有効です。

裏面に続きます

② 書くこと

○体幹・姿勢の安定

- 足の裏がしっかりと床に付くように調整する。(必要に応じて、足台を使用する。)
- 体幹を刺激する運動をする。(ブリッジ、体ひねり、四つ這い、うんていなど)



○頭の動きに合わせて視線を安定させる

- 顔を動かしながら視線を一点に固定する練習(顔を動かしながら、指先を見る。)
- ゆっくり回る・揺れる遊び(バランスボールや回転椅子)で感覚を鍛える。

○頸部(首)の固定と眼球運動のコントロール

- 眼球運動トレーニング(目だけを上下左右に動かす、8の字を目で追う。)
- 顔を動かさずに視線だけを動かす練習をする。

○視空間認知を向上

- 文字を写す前に、「全体を見る→部分(注目箇所)を見る」ステップを意識させ、練習をする。
- ビー玉迷路・パズル・点つなぎなどで空間認知力を楽しく育てる。
- マスの線や色付き補助線を使って、視覚的にガイドを付ける。

○感覚統合(特に触覚、固有感覚、前庭感覚)

「書く」という行為は、細かく分けると、

- 鉛筆の握り加減(触覚、固有感覚)
- 手首、肘、肩の安定(固有感覚)
- 書くときの姿勢、バランス(前庭感覚) など、多くの感覚が統合されて成立する複雑な動作です。

→ブランコやスイング遊びで、前庭感覚を育てる。

→指なぞり文字(紙に書いた文字を指でなぞる)で、書く前の触覚刺激を促進する。

○その子に合った筆記具や紙の工夫

- 太い鉛筆や滑りにくい紙、柔らかい下敷きなどを使う。
- マスの大きいノートを使う。

参考文献

『発達障害&グレーゾーンの3兄妹を育てる母のどんな子もぐんぐん伸びる 120の子育て法』

(大場 美鈴:著/株式会社ポプラ社)

『発達障害&グレーゾーンの3兄妹を育てる母の毎日ラクラク笑顔になる 108の子育て法』

(大場 美鈴:著/株式会社ポプラ社)

『うちの子は字が書けない 発達性読み書き障害の息子がいます』

(千葉 リョウコ:著/株式会社ポプラ社)

『「うちの子は字が書けないかも」と思ったら 発達性読み書き障害の子の自立を考える』

(宇野 彰、千葉 リョウコ:著/株式会社ポプラ社)

『学びにくさのある子への読み書き支援 いま目の前にいる子の「わかった!」を目指して』

(井上 賞子:著/株式会社学研教育みらい)